

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.173

2014/04/30

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 今年も獣害対策に追われそう



ブナ植栽地点の防獣ネット設置 (14/04/26)

「山門水源の森」の1年で最も変化が激しく美しいシーズンを迎えています。一方で獣害（シカ・イノシシ・ノウサギ）は年々拡大しています。本会が獣害対策を始めたのは、2008年のササユリの金網設置からでした。続いて2009年ミヤコアザミ保護区にも防獣ネットを設置。2011年南部湿原のミツガシワの激減を受けて、ここにも防獣ネットを設置。翌年はトタン板（イノシシ用）を設置した。いずれも保護効果はあるのだが、経費・労力は大変なものである。このうち南部湿原のミツガシワの復元は、下記の画像のような成果が出て来ています。



2011年から防獣対策をしている南部湿原 (14/04/27)

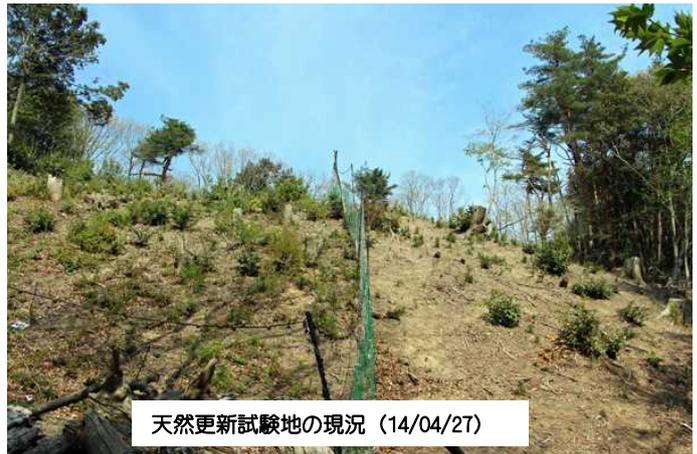
湿原内は、未だ1990年代ような状況にはなっていませんが、子株が足の踏み場も無いほどに戻って来ました。既に子株ながらも花を咲かせているものも少なくありません。しかし観察コースから開花の状態を観るには未だ数年は必要です。一度破壊されたのを元に戻すにはこれほどの年月が必要です。今年度になってミヤコアザミの育苗箇所と昨年永原小や塩津小・東京の成城初等学校の子どもたちがブナを植栽した箇所に新たに防獣ネットを設置しました。ミヤコアザミの保護区はこ



南部湿原に再生してきたミツガシワ (14/04/24)



ミヤコアザミ育種地点防獣ネット設置 (14/04/22)



天然更新試験地の現況 (14/04/27)

れで2箇所ということになります。2箇所にしたのは、1箇所が荒らされても片方で種の維持ができるようにという危機防止策です。昨年播種した2箇所目も発芽して順調に生育しています。

2012年から防獣ネットを設置している天然更新試験地は、日を迫うごとにネットの有無による違いが顕著になってきました。積雪期にネットを外し積雪量が少なかったため、食害を受けたアカメガシワやカラスザンショウも枯れること無く若芽を出しています。今後は、いずれの地点もネットの点検を怠らず、欠陥が見つかればそのつど補修をしていくことが課題です。森の食害は、これらに止まりません。コース開設以来分布面積を拡大する



分布を拡大していたトクワカソウ群落 (13/04/08)



喰われ出したトクワカソウ (14/04/24)

ため種々の保全作業を行ってきたトクワカソウ群落が、今年になって食害を受け始めました。昨年まで徐々に分布を拡大していましたが、このまま放置すると南部湿原のミツガシワのようになってしまいます。早春を彩る可憐な群落ですので何とか保全(又ネット?)を考えねばなりません。同じ仲間のオオイワカガミも同様の食害を受けています。かつて「森だより」で取り上げた「世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学」にあるように今や「植林被害」・「農産物被害」の域を出て『日本の森が危ない』というのが実感です。



ユキバツバキ林床整備 (14/04/12)



ササユリ踏み付け防止ラベル設置 (14/04/24)

今年もユキバツバキが見事に咲いています。4/12 本会主催の観察会を行いました。同時にユキバツバキ分布域の林床整備を続けています。この林床でもツバキの落花はことごとくシカが食い尽くします。ササユリの保全作業も続いています。まずは踏み付け防止ラベル設置(約4,000枚設置・4/27完了)・群生地防獣ネット設置(進行中)、続いて金網設置のための支柱立てを行います。既に30cmを超え花芽が伸びているものがあり急ぐ必要があります。

森はこれから1ヶ月生き物の変化が大きき時期です。1日で大きく変わります。是非新緑の森をご家族・お知り合いを誘ってお訪ね下さい。